

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・**実施結果**)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導 ※ JSL=Japanese as a second language	①確かな学力の定着および学習習慣の確立に向けた取組を行う。 ②自己肯定感とコミュニケーション力の向上を目指し、一層の授業改善を進める。 ③個々の能力・状況に応じた学習支援体制を整える。 ④日本語を母語としない(JSL※)生徒に対しても確かな学力の保証を図る。	①学習習慣が定着し、生徒が「わかる」「学力がついた」と実感できるよう取組を進める。 ④JSL生徒の学習環境に配慮し、愛川高校での学習における問題の解決に努めるようにする。	①朝学習等を通じて生活習慣を確立するとともに、家庭においても短時間でも学習に取り組むよう課題等を設定する。振り返り学習を行い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ④JSL生徒の授業展開や教材の精選等をし、日本語や日本文化の理解を進める。	①生徒による授業評価の項目「授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができたか」において、評価4・3の計が90%を超えることができたか。 ④JSL生徒の授業展開や体制において配慮、工夫ができたか。クラスでの日常生活や授業、行事等において、一般生徒との交流する場面が多くできたか。	①左記の項目において調査(2回の平均)で、1年84%、2年81%、3年78%であった。目標の90%を超えることはできなかったが、1、2年は昨年度より若干上がっている。3年は大きく下回る結果となった。(3年は、昨年度2学年時の平均とほぼ同じ。) ④JSL生徒については授業体制や補習等継続してフォローをすることができた。日常生活においても、一般生徒と交流する場面が多くみられた。	①3学年のポイントが低めだったのは、昨年に続く学年の傾向だと考えられる。1、2年は例年に近い傾向なので、教材の精選や授業の工夫をすすめ維持・向上を図りたい。 ④JSL生徒についても授業改善を進める他、日本語や生活習慣などについて引き続き指導する機会を設ける。	・生徒の授業評価で1・2年生の評価が上がっていることは評価できる。学年により傾向があるとはいえ、さらなる向上を図っていただきたい。	①朝学習等による生活習慣を確立する取組について、1・2年生の評価が昨年度より上がった。生徒が基礎的・基本的な知識の定着を実現できたと感じる機会が増えたと考えられる一方で、3年生については、改善に向けて引き続き取り組むべき課題であると考えられる。 ④JSL生徒については、少人数での授業展開や、丁寧な補習対応により、学習に課題を抱える生徒の解決に寄与することができた。	①朝学習等を通じた学習習慣の定着に向けた取組は、継続して実施していく。その中で、3年生に対して改善ができるように、教材の精選や、進路活動と関連した学習を実施することで、より興味・関心を引き出す取組を充実させていく。 ④JSL生徒等に対する学習の工夫や、基礎力定着への取組は、引き続き行われている。来年度についても、授業展開や教材の精選を行うとともに、丁寧な面談指導、補習対応などを継続して続けることで、学習に課題を抱える生徒を支援していく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①地域の中の学校として地域とともに規範意識の向上を図り、リーダーシップを育成する事でコミュニケーション能力の向上を目指す。 ②個別支援を積極的に推進し個々に応じた指導を行う。 ③中学校との連携や交流を生かし、部活動・学校行事の活性化を図る。 ④生徒の主体的な学校行事への取組を推進する。その活動を通して自己肯定感の醸成とコミュニケーション力の向上を図る。	①規範意識の向上を目指し、問題行動の未然防止に取り組む。そのためリーダー育成に努める。 ②面談等を通して個別支援の必要性を共有し継続的に指導を進めていく。 ③④生徒会活動を活性化し、その活動を通して、生徒の自己肯定感の醸成とコミュニケーション能力の向上を図る。	①放課後の交通安全指導等を通して規範意識の向上や問題行動の未然防止に努める。 ②年複数回実施の生徒との面談を通して積極的に生徒理解に努める。 ③④生徒会本部を中心とした、中学校等との交流活動を円滑に進める。校内においては、部活動や委員会活動を生徒の主体性を重視した企画運営で行い、自己肯定感の醸成を図る。	①問題行動の件数を前年度よりも3割減らすことができたか。 ②面談等を通して個別支援の必要性を職員間で共有し短期的な目標を掲げる事ができたか。 ③④地域や中学校との多くの交流活動を実施することができたか。また、行事の企画運営で生徒が主体性をもって活動することができ、自己肯定感の醸成につながったか。	①特別指導件数は昨年度と同じ83件であり、目標を達成することはできなかった。学年別にみると、1年は昨年度42件から53件に増加、2年は昨年度30件から16件に減少、3年は昨年度11件から14件と微増。入学年度別にみると、現3年は昨年度(2年次)30件から14件47%減、現2年は昨年度42件から16件38%減と、いずれも目標の3割減を達成している。 ②二者面談、三者面談、サポートドック、アンケート調査等を通して個別支援のきっかけを見出すことができた。 ③④中学校との交流活動は、バスケットボール部(3回実施、参加人数延べ100名)や陸上競技部(3回実施、参加人数延べ30名)、バレーボール部(1回実施、参加人数100名)などいくつかの部活動で中学校との交流が行われた。いずれも昨年と比較して回数または人数で増加した。学校行事での企画運営は自己肯定感の醸成につながった。	①規範意識の向上に関して、一部の生徒(特に新入生)の意識が低く、今後は新入生の指導に重点を置く必要がある。巡回指導は、教職員の負担となっているため、方法についての検討と並行し、生徒自らによる規範意識の向上を目指す取組が今後の課題と考える。 ②個別支援を必要とする生徒への支援体制をより充実させる事が課題と考える。 ③④中学校との交流は、生徒交流WGを中心により多くの部が参加できるように早めの周知など工夫をしたい。また、生徒会本部がリーダーシップを取り、生徒の主体的な取組につながるようにしたい。	・中学校との交流活動は高く評価できる。生徒の主体的な取組につながることを期待したい。 ・生徒指導面では、新入生の規範意識への懸念があるようだが、引き続きご指導・意識向上への取組を行っていただきたい。	①規範意識の向上に関して、巡回指導の結果、きめ細かく生徒を見守ることができ特別指導件数は、昨年度と同じであった。巡回指導をしたことによる問題行動の抑止の効果は高いと思われるが、教職員の負担となるため、方法の検討と生徒自らによる規範意識の向上を目指す取組が今後の課題と考える。 ②個別支援のきっかけを見出し、SC、SSWにつなげ解決の糸口をつかむことができてきている。個別支援を必要とする生徒への支援体制をより充実させる事が課題と考える。 ③④来年度も引き続き中学校との交流を続けてために、愛川町の中学校とではなく、市外の中学校との連携をしていきたい。また、生徒WGの活動の中で、生徒会役員や連携生活活用して中学校との連携を取り、生徒の自己肯定感の醸成につなげていく。	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月22日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①総合的な探究の時間の活用を含む地域と連携した取組を用いながら、生徒の3年間を見通した指導により、自分の価値観を見つめ、関心分野を広げ深めた上で、主体的に希望する進路指導を実現する。	①総合的な探究の時間の活用を中心としたキャリア教育の推進により、将来を見据えた進路選択が可能となる進路指導体制を確立し、保護者を含めた生徒のための支援体制を構築する。	①総合的な探究の時間の活用を組織的に、かつ継続的なものとして構築する。探究活動や成果発表会などの探究の手法を進路決定に活用する。また、保護者向け説明会など保護者の進路意識を高める働きかけを行い、生徒とともに進路活動を進める体制を構築する。	①生徒が自ら目標を設定し、挑戦できたか。 ・総合的な探究の時間を活用できたか。 ・生徒の進路希望の達成率87%以上を超えることができたか。 ・保護者向けの進路行事を構築できたか。	①3年は目標の87%には届かなかったが、85% (2月末) が進路希望を達成できている。校外への進路見学会の再開、企業に来校してもらう機会の増加により職業研究、分野別研究を進める良い機会となった。職場見学の制限を無くしたことで、多くの生徒が複数の会社を見学し進路決定を行うことができた。保護者説明会は進学、就職別に行うことでより充実した内容で実施できた。	①総合的な探究の時間の活用の仕方、実施内容などより良いものになるよう今年度の反省点を次年度に活かしていく。 ・クラスルームなどのアプリケーションを活用し、進路活動のスケジュール管理などができるようにしていきたい。 ・保護者向けの進路説明会を早期に実施したが、参加者は想定より少なかった。時期を含めて、より多くの参加者を集める説明会としての工夫を検討する。	・生徒の進路希望の達成率目標に近い数字 (2月末) であり、努力の跡が感じられる。次年度は課題・改善点に挙げた内容をしっかりと取り組んでいただきたい。 ・進路指導面で、3年生の85%が希望を達成できているということの評価します。コロナ後で、多くの企業等を直接知る機会が増加し、とても良かったと考えます。	①3年は85%が進路希望を達成できている。また進学費用に関する情報が年々変わるので、しっかりと保護者へ伝えられるよう保護者説明会の充実に努めたい。	①正規の就職を希望しない生徒が毎年いるので、地域の企業とも連携し、早い段階から就業に対する意識を高めていきたい。 来校が難しい保護者も多いので、説明会などをzoomなどオンラインも利用するなど工夫し、より多くの保護者へ情報提供ができないか検討する。
4	地域等との協働	①学校運営協議会を中心に地域との協働を目指す。また、地域・学校協働本部との連携を円滑にし、学校外活動を推進する。	①地域連携サークルの活動を推進する。また、地域・学校協働本部 (明日楓会) と連携し、学校外活動を推進する。	①地域連携サークル各部門の活動を通じ連携生の主体的な活動を、組織的に育成する。また、学校外活動は、明日楓会と連携し、生徒の要望に対応する事業所の確保を進める。	①生徒の主体性を引き出すことができたか。グループと教科の連携ができていたか。学校が提示するボランティアやインターンシップが生徒の要望に答えられたか。	①年度の初めに地域連携サークルの部門や行事ごとの連携生の分担を決めた。事前に活動内容を確認することで、各分野で責任を持って活動をさせることができた。学校外活動に参加する生徒は、卒業要件としていた昨年度の84名と比べ、47名と半減した。地域連携サークルボランティア部門の活動がその数字を支えている。	①学校外活動については、各分掌グループの連携が必要である。また、今後については、単位取得が目的ではなく、体験を目的とした取組に変化させることが改善につながると考える。そのためには生徒の要望をアンケート等で把握し、多くの体験の場を地域・学校協働本部 (明日楓会) と連携して提供していくことが課題となる。	・地域連携サークルの活動は愛川高校ならではの特色があり評価している。ただし、単位取得を目的とするより、生徒がこれをきっかけに主体的な学びにつながることが大事であり、参加生徒の声を聞きたい。 ・地域連携の取組は、卒業要件から外れるという位置づけにした影響が多いようですが、“やらされ活動” から“やりたい活動” への変革が軌道に乗るよう願っています。	①地域連携事業に参加した生徒の思考力や行動力の向上、自己肯定感の高まりは著しく、リーダーとしての力量も確実に育っている。一方で参加生徒の半減が課題であり、学校関係者評価にある「参加生徒の声」を全校生徒に届ける工夫が必要である。	①令和5年度に地域連携事業に参加した生徒をリーダーやコーディネーターに指名し、全校生徒に地域連携事業での取組について報告する機会を設ける。その際、令和6年度の事業への参加を促し、参加生徒のチームを編制する役割を与える。教員は、地域学校協働本部 (明日楓会) と連携して、生徒の主体性を育成することをねらいに、生徒の活動を支える体制を整備する。
5	学校管理 学校運営	①「学び続ける教師、変化に対応できる教師」を目指し、事故のない安全安心な学校運営の推進を図る。 ②地域との連携を深めながら、生徒にとって安全安心な学校環境を構築する。	①安全安心な学校運営のため不祥事防止に向けた取組を職員が主体的に行う。 ②地域との連携を深めながら、生徒・職員に対する現実に即した防災研修・訓練を充実させる。	①定期的な不祥事防止会議の内容を各グループで独自に考え実施することで事故不祥事を他人事にならない職員集団をつくる。 ②FGC員、地域連携サークルを中心に地域と連携した防火防災活動を行う。	①事故不祥事を他人事にならない研修・啓発活動を主体的に実施することができたか。 ②連携した防火防災活動・訓練が実施できたか。多くの生徒・職員が参加できたか。	①毎月の職員会議で実施しているが、今年から各グループ独自 (12回中6回) の内容で行ったことにより、不祥事を他人事にならない雰囲気を一層高めることができた。 ②7月 (参加生徒22名) と12月 (参加生徒8名) に消防署と連携して消火訓練を行い、防災意識をさらに高めることができた。	①今年からグループ独自の内容での会議を始めたが、グループ内で連携を取りながら、不祥事防止の雰囲気をより高める必要がある。 ②FGC員を中心に訓練を行っているが、より多くの生徒に防災意識を持たせる工夫が必要である。	・新たな取組としてグループ独自の内容で会議を行ったことは意義がある。常に工夫が求められる。また、さらなるレベルアップを図っていただきたい。	①各グループが主体となって実施する不祥事防止会議や研修会などを実施し、自分事としての取組が当たり前のこととして定着しつつある。次年度はその内容をブラッシュアップしていく。 ②消防署と連携した消火訓練を生徒とともに実施することができた。次年度は、生徒の参加人数を増やすとともに全生徒を対象にした研修の実現を目指す。	①事故不祥事防止に係る会議や研修会の振り返りシートを充実させ、学校運営協議会で報告するとともに学校運営協議会委員と意見交換することなどにより、さらなるレベルアップを目指す。 ②地域と連携した訓練に加えて研修の場も設定する。また参加生徒を増やすとともに防災意識を持つ生徒を増やすことを目的に、体験した生徒に体験活動の報告を行う場を設定し、体験や挑戦することの面白さを生徒間で共有する。